

キューバの価値教育について

武蔵大学 武田信子

キューバの印象（渡航前）

- ◎ 日本：左翼というラベリング
独裁者による支配　サルサと音楽
グアンタナモ収容所　チェの映画
- ◎ カナダ：カリブの人気リゾート地　中継地
アメリカVSキューバのゴンザレス君
- ◎ セヴァン・カリス・スズキの妹の留学した国
- ◎ 吉田太郎氏の著作

キューバ視察 IN MARCH, 2010

キューバ視察日程・視察先

2010/3/9	市民教育施設	Dr.Martin Luther King,Jr. Centro memorial
2010/3/10	有機農場	Unidad Básica de Producción Cooperativa " Organopónico Vivero Alamar "
2010/3/11	識字博物館	Museo Nacional de la Campaña de Alfabetización
	視覚教育学校	Abel Santa Maria Escuela Especial de Débiles Visuales
	教員養成学校	Instituto Superior Pedagógico (ISP) 説明
	ハバナ大学本部（副学長ヒアリング：ソーシャルワーク）	
2010/3/12	中央教育科学研究所	Instituto Central de Ciencia Pedagógica
	心理教育研究所（障害者施設）	La Castellana
	眼科病院	Hospital Pando Ferrer
2010/3/13	小学校	
	教員養成学校（2回目）	授業見学
	子どもの劇場	La Colmenita
	農業学校	Villena Revolución
2010/3/14	ホセ・マルティ博物館	Memorial José Martí
	国立自然保護地区	Complejo Turístico Las Terrazas
	有機レストラン	Restaurante El Romero

他保育所など

キューバの印象（生活）

- ◎ 経済封鎖によって、物資の不足が著しい。商店に商品がない。飢えることはない。肉は配給。牛乳は小児病院へ。（一方で、経済封鎖が解けたら肥料や農薬が入り健康が損なわれる…という）
- ◎ 外国人用と国内用の二種類のお金。
- ◎ 日本人や若者は生活が困難、うらやましいと感じるだろう。
- ◎ 人道支援や教育支援によって中南米をリードし支える（さらに貧困な国に分け与える）
- ◎ 貧しさゆえの豊かさの残る国。

キューバの印象（市民主体）

- ◎ 住民中心の発想：むしろ日本より民主的
(例) 住民自治：町の課題を見つけ、それを議論し、施策に反映させる。←そのための方略を教える市民教育
- ◎ 生徒たちが希望を持ち、理想に向かい、自己の成長を求めている
(例) 教育実習：学校の課題を見つけ、それを卒論にし、現場に戻す。←そのための方略を教える教師教育
- ◎ 教育・医療＝予防に重点を置いている
- ◎ 人権：人種・性別等による差別が見られない

キューバの印象（子どもたち）

- ◎ 子どもたちが路地で異年齢集団で遊んでいる。
- ◎ 子どもの劇場（学童のように放課後集まる場）
 - * キューバ危機をきっかけに子どもたちを元気づけようと財政難の中、あらゆる職業の大人が関わって創られた。
 - * 子どもが文化を楽しむことは文化レベルを上げることよりも大切
 - * 入団テストはしない。常に家庭と同じような場に。子どもと子どもの家庭が大切と考える国。
 - * スタッフは毎朝ミーティング「他の人のために心から何かをすること」(ホセ・マルティ)を確認

キューバの印象（子育て・教育）

- ◎ 子育てに、大人による子どもの比較がない
- ◎ 競争の意味合いが異なる(個人ではなく、集団の向上)
- ◎ 学生中心に進める授業(教師は見守る)
- ◎ 学びの意味を大学生たちが実感している「眠い授業もあるけれど、自分たちは教員を目指しているのだから、役立つ授業は積極的に受ける」
- ◎ 凶悪犯が出ない。軽犯罪は金曜帰宅。刑務所で勤労して得た収入で、出所後に生活する。

キューバの印象（困難）

- ◎ 政治的な自由度に制限がある（日本はないと言えるか？ ←cf. オランダ）
- ◎ 国家としての動きに、経済制裁への対抗の意味合いがつきまとう
- ◎ テレビや映画の影響…若者のアメリカへのあこがれ…母国脱出…経済教育が不十分で市場主義（生活の保障がないこと、物の金銭的価値）を知らない若者たち
- ◎ それでも…キューバの良さは何か？

政治の影響

- ◎ ロシア: ヴィゴツキー cf. フィンランドの教育
- ◎ チェルノブイリ 人道支援の背景？
- ◎ 中国: 漢方・カンテラ
- ◎ ベトナム: 米の輸入
- ◎ ブラジル: フレイレに影響を与えた？
- ◎ ベネズエラ: 相互支援
- ◎ ハイチの津波: アメリカ資本に対抗しきれない
- ◎ ドイツから医療機器の輸入(命を奪う経済制裁)

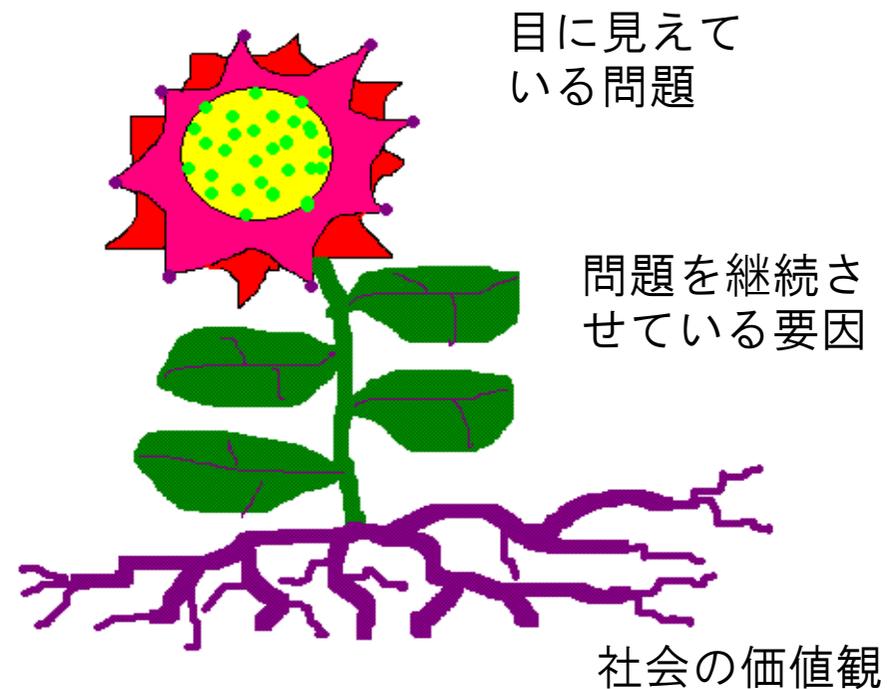
自分がいかに西欧中心に情報を得ているか！

キューバから何をどう学ぶか？

- ◎ 正確な情報が必要
- ◎ 多くの視点で実際に見ることが必要
- ◎ 「不足」「工夫」をどうとらえるか？
- ◎ 何が彼らを支えているか…歴史的背景
- ◎ 社会主義をどうとらえるか？
- ◎ なぜ、日本からキューバなのか？自分が何を求めているのか？日本に何が必要なのか？
- ◎ 生きることや人をどうとらえているか？何に価値を置いているか？
- ◎ 自分はキューバに暮らせるだろうか？

キューバを理解するためには

- ◎ 私たち自身の価値観の問い直しが必要ではないか？



キューバの教育の祖： ホセ・マルティ

◎ ホセ・フリアン・マルティ・ペレス

(José Julián Martí Pérez, 1853-1895)

- ◎ キューバの文学者、革命家。キューバ独立革命に参加した英雄であり、かつ、「黄金時代」など、教育に関して残したことばが、キューバの教育の根幹となっていて、あちこちの家に胸像が置かれている。
- ◎ ラテンアメリカに於けるモデルニスモ(近代文学)の先駆者であり、アメリカ主義者と呼ばれる。
- ◎ 著作に対して、日本語の翻訳が少ない。文学作品は紹介されているが、教育に関してはほとんど情報がない。

“価値教育とその実質に対する評価” (2008)

- ◎ 著者 フスト・チャペス・ロドリゲス
エステル・バステル・ペレス
エクトル・バルデス・ベロス
- ◎ 出版 Editora Poltica www.pcc.cu (キューバ共産党のHP)
- ◎ 目次
 - 第一章 価値と歴史
 - キューバ教育理論の歴史的想像: 価値形成
 - 第二章 価値教育とその評価のための基本前提理論
 - 第三章 価値教育と教育の質



価値教育とは

「人々を一か所に集めて、社会の共有財産として既に確立されている価値に同調させること」

ではなく

「権利の行使と義務の遂行を通じて、社会共通の課題に取り組むための個々の責任と能力を育成すること」

道徳教育、いわゆる思想教育とは似て非なるもの

キューバと対峙する

- ◎ 価値観の理解不足による結果的な（＋意図的な）情報操作によるものであったことに気づく
- ◎ 物質的な豊かさと精神的な豊かさのバランスをとる（価値観の見直し）ことができるのか
- ◎ 教育の移入で済む問題ではない
- ◎ → 改革を可能とした国民の価値観の形成のプロセスについて学ぶ必要がある

読書会のご案内

- ◎ “価値教育とその実質に対する評価” 読書会
- ◎ 4月から1ヶ月か2ヶ月に一回
- ◎ 武蔵大学武田信子研究室にて
- ◎ 担当箇所の要訳・報告・討議

参加希望者は

Subject 価値教育読書会参加希望 と書いて

takeda@cc.musashi.ac.jp へ